

Broaden your horizons ～さあ、視野を広げて!～

こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

先日、薬物依存関連学会に参加しました。この学会は精神科のドクター、カウンセラー、警察といろいろな職種の方が参加します。覚醒剤の歴史は戦後70年ありますが、脱法ハーブはここ2年のお話。2009年に2店しかなかった脱法ハーブ店が2012年には93店にまで激増。脱法ハーブの何が怖いかというと、成分が不明だから、何が起るかわからないということです。さらに、成分の均一性がないため、症状が一定ではありません。

救急救命のドクターは、成分が不明なので対症療法しかできないことに困っていました。さらに科捜研では、血を抜いて検査するのも「捜査令状」がいるため、捜査令状が下りる8時間の間に、成分が代謝され分析ができないという歯がゆい法律問題も絡んでいると悩ましが。そして規制がかかる度に、かいくぐるために変形し、危険が増し、脱法ハーブは今や、大麻の40倍の依存性と神経毒性を持つといわれているそうです。

脱法ドラッグの生涯経験率は、米国が48%、英国が38%の中、日本は2.5%と1桁少なく、奇跡の国といわれています。学会ではありがたいことに、薬剤師の方にも協力してほしいとお話が出ました。薬剤師として、脱法ハーブの危険性を伝えていこうと思います!

Medisere (メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子